# 手順編


| | |
|---|---|
| STEP1.フレーム | ▶20 |
| STEP2.フィラー固定材・側板（側板がある場合） | ▶22 |
| STEP3.排水継手 | ▶24 |
| STEP4.止水栓 | ▶25 |
| STEP5.幅木 | ▶28 |
| STEP6.フィラー | ▶29 |
| STEP7.前板 | ▶30 |
| STEP8.汚物流し | ▶31 |
| STEP9.セットタンク | ▶34 |
| STEP10.便器洗浄ユニット | ▶41 |
| STEP11.タッチスイッチ | ▶44 |
| STEP12.器具類 | ▶45 |
| STEP13.甲板 | ▶46 |
| STEP14.試運転・確認 | ▶49 |


## マーク表示について

電動ドライバー使用禁止です。
手締めしてください。

下穴をあけてください。
（例:φ3の場合）

カットしてください。

脱脂用アルコールで
脱脂してください。

ロングビットの電動ドライバーを
使用してください。

けがきをしてください。

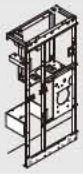
水平器で水平･垂直確認
してください。

# STEP1.フレーム

**1** 器具心・固定位置の墨出し

▶P.20

**2** フレームの取付準備、取り付け



▶P.21

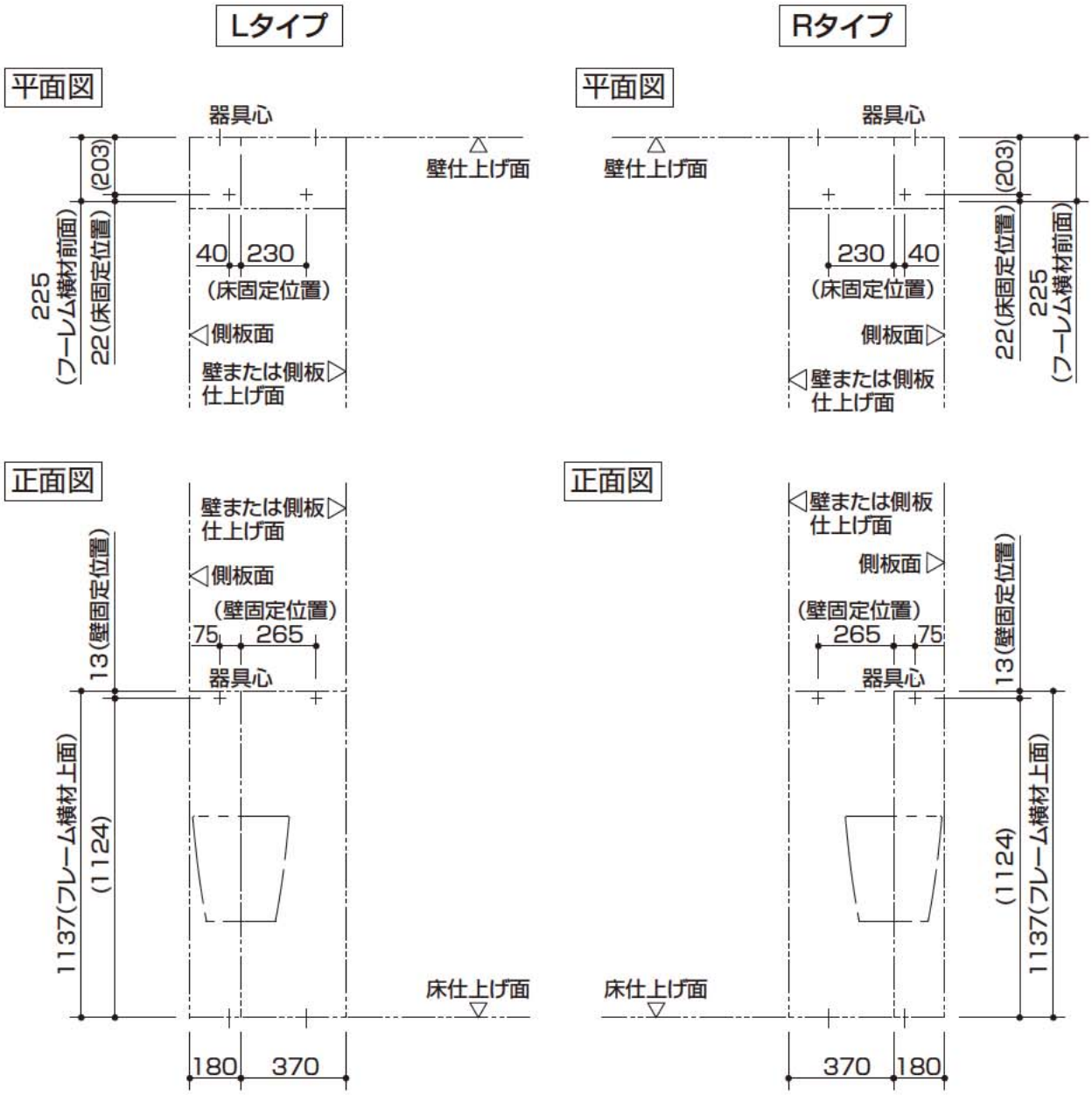
## 1 器具心・固定位置の墨出し

❶ 下記を参考に、器具心・フレーム位置・床／壁固定位置を墨出しする

【下地がコンクリートの場合】

❷ 樹脂プラグ用の下穴をあける

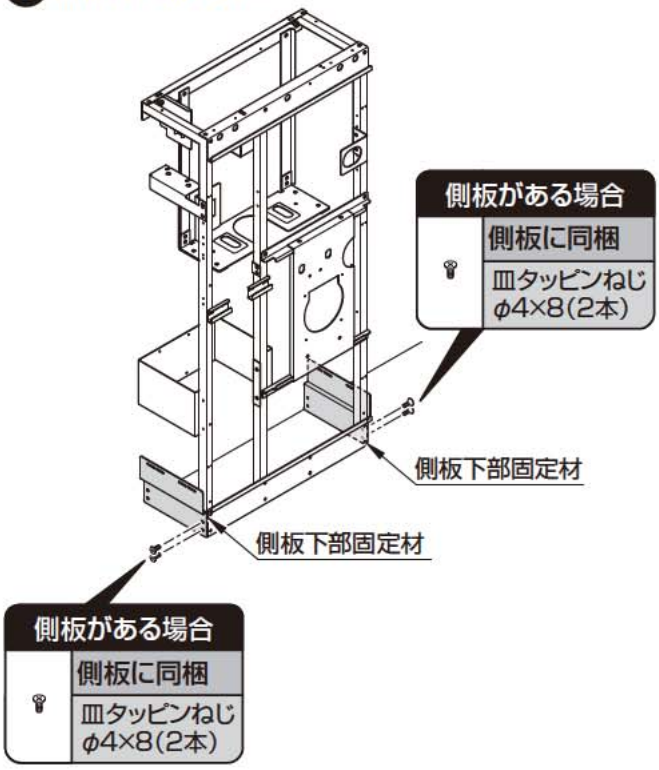
樹脂プラグ
（下穴φ8
深さ:仕上げ厚+55mm）



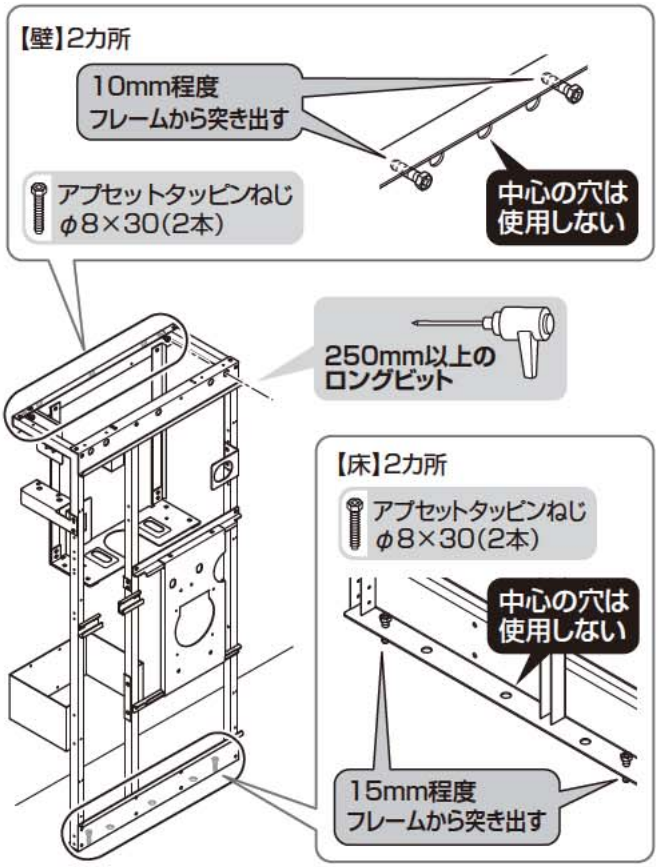
## 2 フレームの取付準備、取り付け

フレームにテープ止めされている、フィラー固定材を取り外して、保管しておいてください。

### ❶ 側板固定材の固定

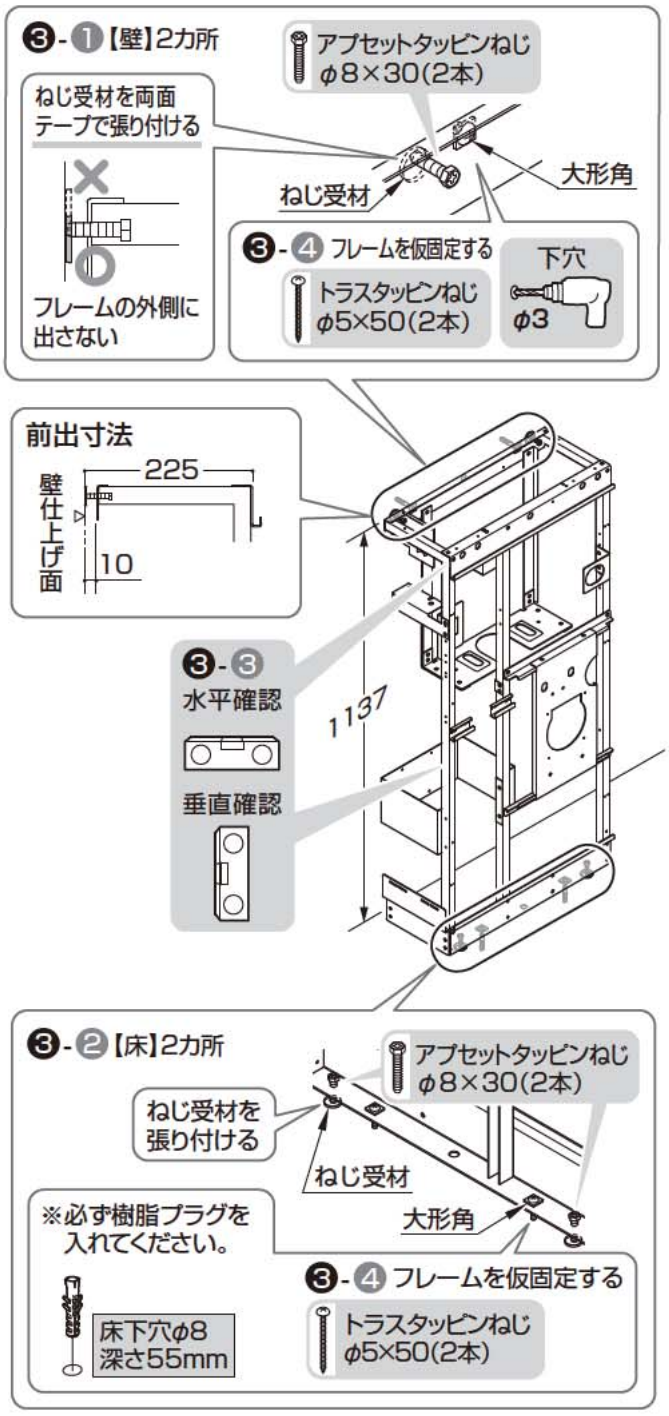



### ❷ 調整用ねじの取り付け(フレーム準備)




### ❸ フレームの調整、仮固定

**※あらかじめ壁・床固定用下穴位置を確認してください。**




### ❹ ❸で調整したねじを本固定する

# STEP2.フィラー固定材・側板（側板がある場合）

**※本施工説明書では、側板が向かって左側に取り付く場合を記載します。**
**側板を向かって右側に取り付ける場合は左右反転になります。**
**側板を左右両側に取り付ける場合は両側とも取り付けてください。**

**注　意**

- **ドライバーで手締めすること**
- **フィラー固定材の向きを間違えない**

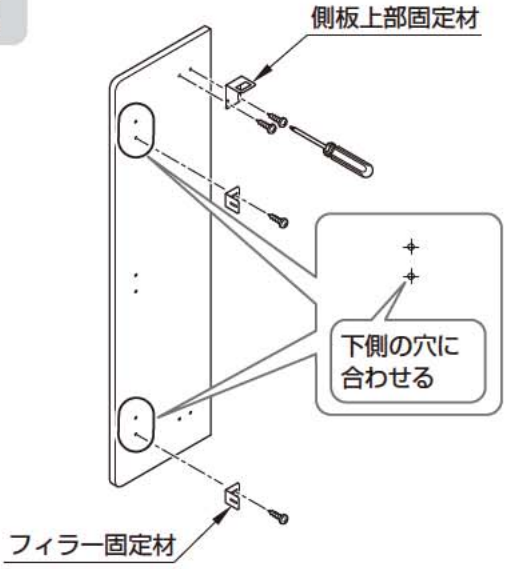
## 1 フィラー固定材の取り付け

### 側板ありの場合

**フィラー固定材と側板上部固定材をねじで仮固定する**
※長穴の中心を目安に手で動かせる程度。

タッピンねじ
φ4×12(4本)

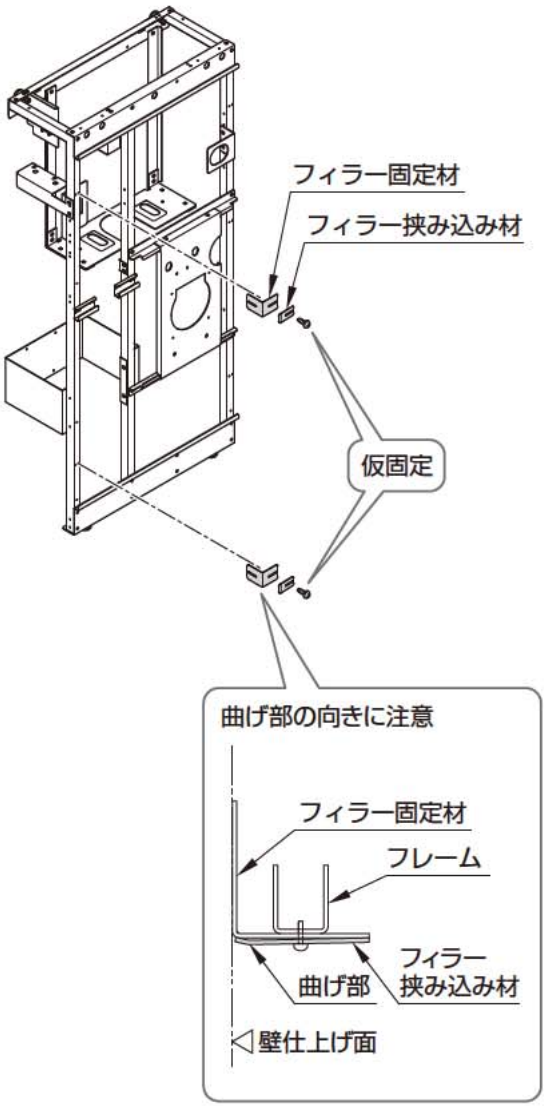
手締めで




### 側板なしの場合

**フィラー固定材とフィラー挟み込み材をフレームに仮固定する**

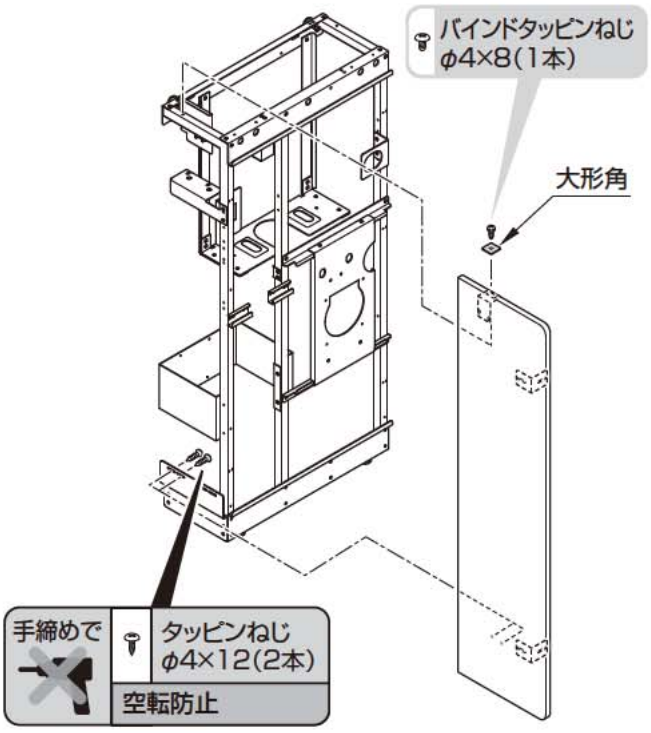
バインドタッピンねじ
φ4×8(2本)



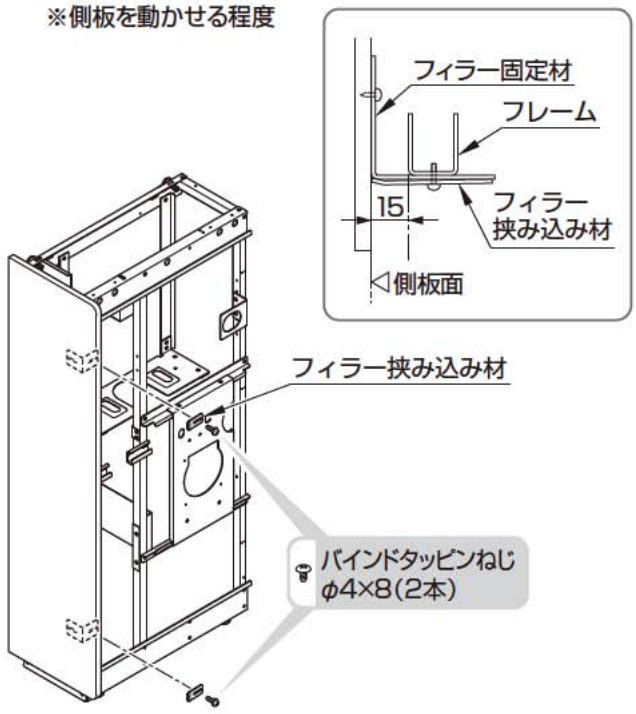
## 2 側板の仮固定

側板ありの場合

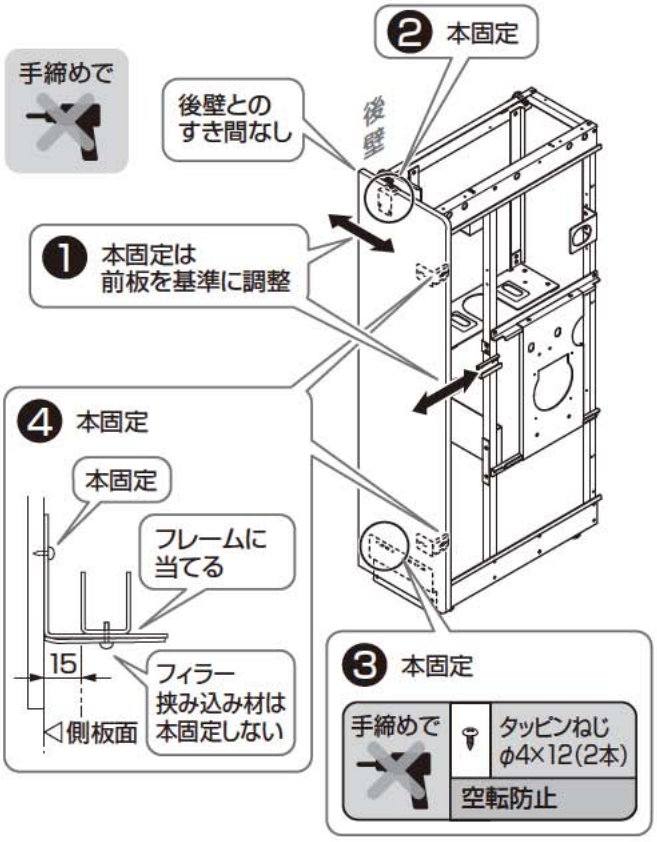
❶ 側板を側板下部固定材と側板上部固定材にて仮固定
※長穴の中心を目安に手で動かせる程度




❷ フィラー挟み込み材をフィラー固定材の位置に仮固定する
※側板を動かせる程度




## 3 側板の本固定



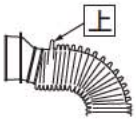

MEMO

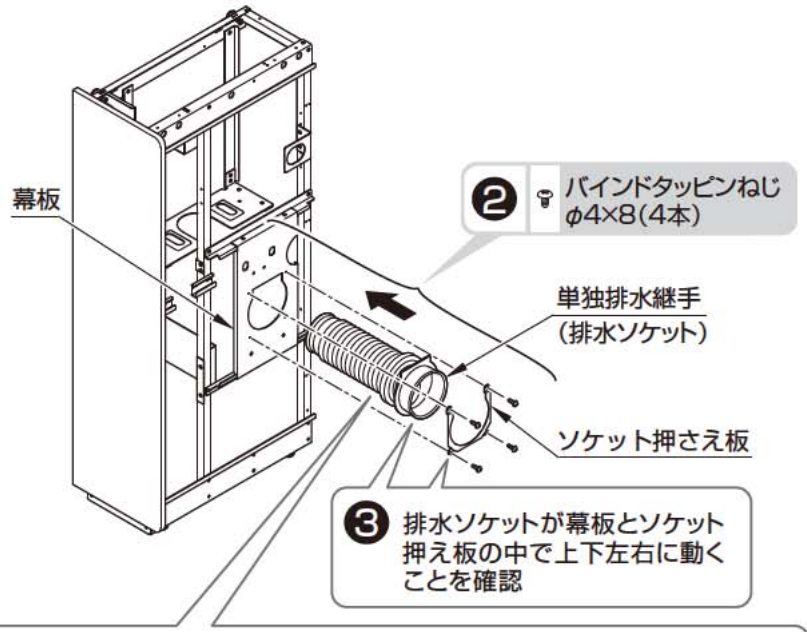
# STEP3.排水継手

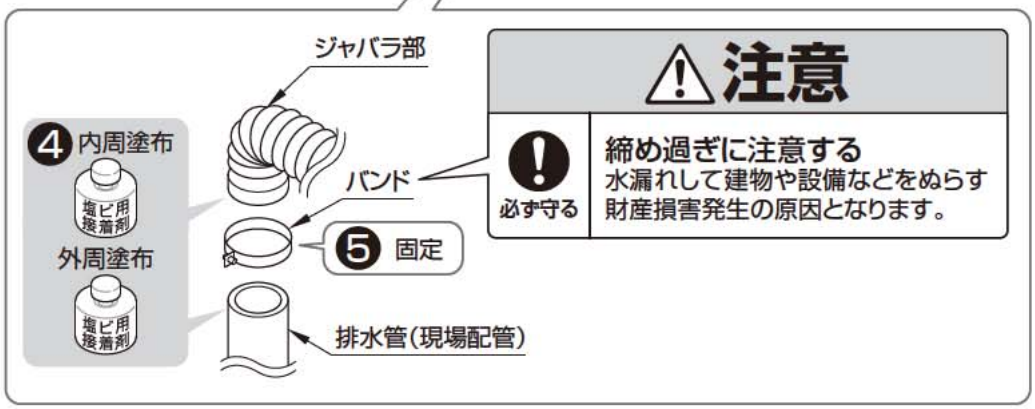
**パッキンはSTEP8で使用**

▶単独排水継手施工説明書参照

❶ 単独排水継手の向きを確認




## ⚠注意

必ず守る

**締め過ぎに注意する**
水漏れして建物や設備などをぬらす財産損害発生の原因となります。

## ⚠注意

必ず守る

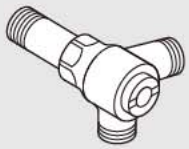
- **ジャバラ部は必ず排水管に接着する**
- **ジャバラ部を無理に曲げたり逆勾配にならないよう接続する**

水漏れして建物や設備などをぬらす財産損害発生の原因となります。

MEMO

# STEP4.止水栓

**1** 止水栓・分岐金具・L継手の取り付け



▶P.25

**2** サーモスタット・止水栓の接続

▶P.26



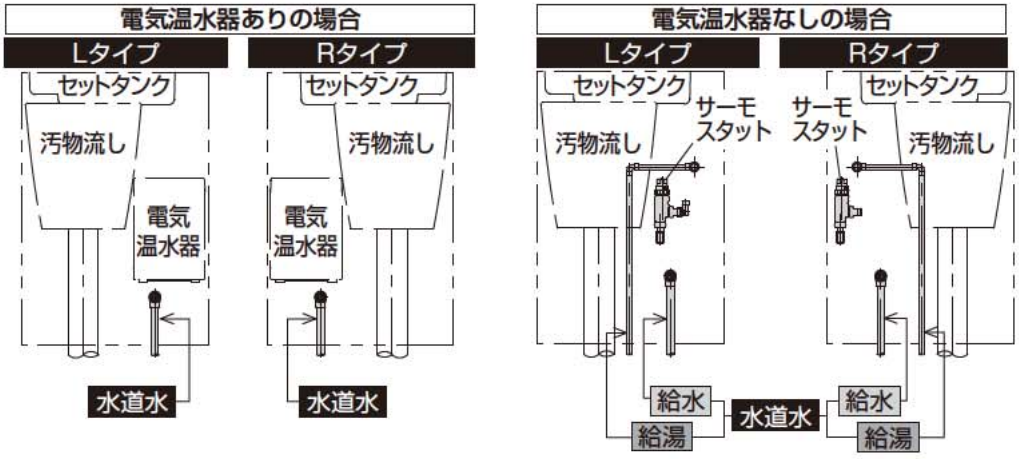
## 1 止水栓・分岐金具・L継手の取り付け

選択された仕様により取り付ける止水栓・継手が異なります。
下表に従い、図の向きにあわせて取り付けてください。

### 水道水仕様の場合

| 電気温水器あり・Lタイプ | 電気温水器あり・Rタイプ | 電気温水器なし・Lタイプ | | 電気温水器なし・Rタイプ | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 給水 | 給湯 | 給湯 | 給水 |
| セットタンク<br>電気温水器 | セットタンク<br>電気温水器 | シングルレバー<br>セットタンク<br>サーモスタット | シングルレバー<br>サーモスタット<br>※フレームに付いています | サーモスタット | シングルレバー<br>セットタンク<br>サーモスタット |

<給水立ち上げ位置>

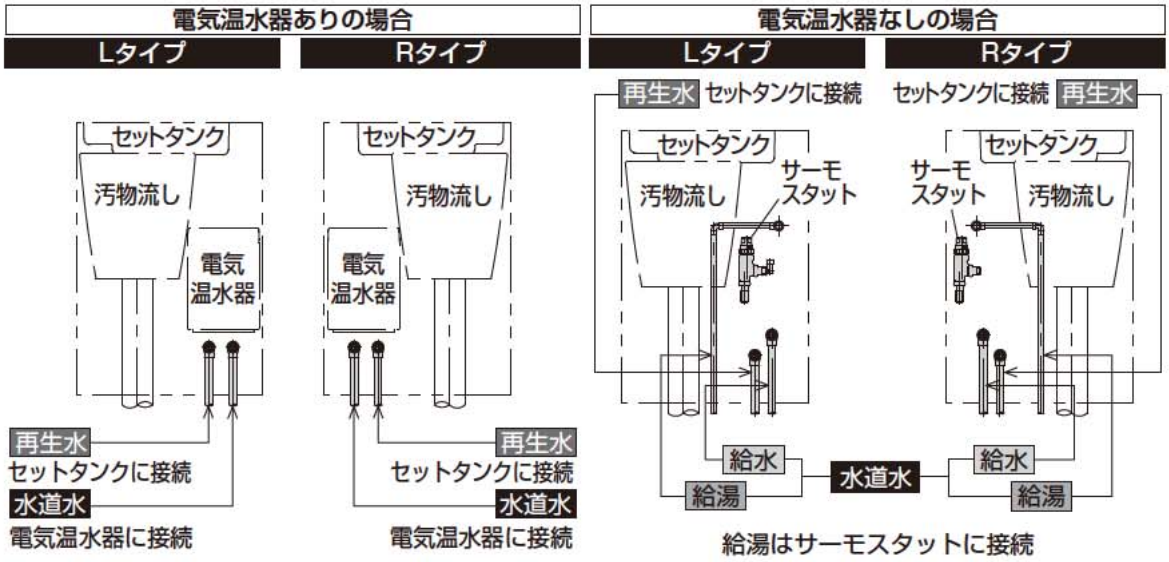



給湯はサーモスタットに接続

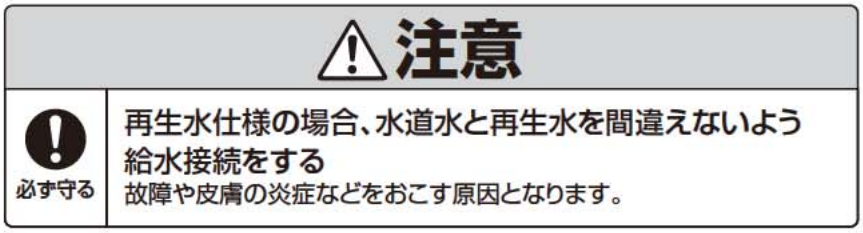
### 再生水仕様の場合

| 再生水側 | 水道水側 | | |
|---|---|---|---|
| | 電気温水器あり | 電気温水器なし・Lタイプ | 電気温水器なし・Rタイプ |
| Lタイプ<br>セットタンク<br>Rタイプ<br>セットタンク | LRタイプとも下向き<br>電気温水器 | 給水<br>シングルレバー<br>サーモスタット<br>給湯<br>サーモスタット<br>シングルレバー<br>サーモスタット<br>※フレームに付いています | 給湯<br>給水<br>シングルレバー<br>サーモスタット<br>サーモスタット |

<止水栓位置>




## ⚠注意


必ず守る

**再生水仕様の場合、水道水と再生水を間違えないよう給水接続をする**

故障や皮膚の炎症などをおこす原因となります。

## 2 サーモスタット・止水栓の接続

右記表を参考に、各止水栓とサーモスタットをフレキ管で接続します。

| サーモスタットの接続先 | 長さ |
|---|---|
| 止水栓(給水管用)フレキホース | 約600mm |
| 止水栓(給湯管用)フレキ管 | 約500mm |

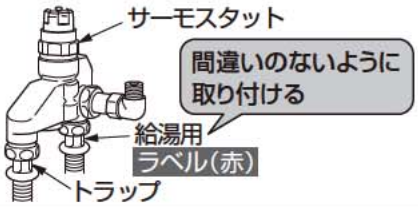
## ⚠警告

禁止

**湯水を逆に接続しない**

水を出そうとした際に湯が出て、やけどの原因となります。

【サーモスタットの取出口】
- 奥(壁)側…給湯用
- 手前側……給水用

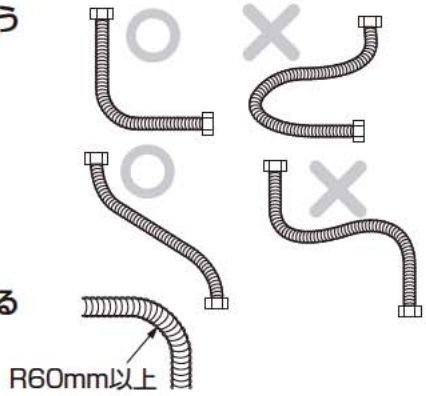


【フレキ管】

## ⚠注意

必ず守る

- **フレキ管の取り付けは必ず下記の項目にそれぞれ注意して行う**
  水漏れして建物や設備などをぬらす財産損害発生の原因となります。
- **フレキ管は、取り付けの前にあらかじめ所定の形に曲げる**
  フレキ管は小さい角度で曲げないでください。
  また、袋ナット付け根部分を曲げないでください。
- **1～2回程度の曲げで所定の形にする**
  曲げ作業をくり返すと破損するおそれがあります。
- **必ず同梱のパッキンを使用する**
- **袋ナットは十分締め付け、取付後、水漏れがないことを確認する**
- **フレキ管は極端に折らず、R60mm以上を確保する**
  水漏れして建物や設備などをぬらす財産損害発生の原因となります。

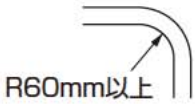



【フレキホース】

## ⚠注意

必ず守る

- **フレキホースの取り付けは必ず下記の項目にそれぞれ注意して行う**
  水漏れして建物や設備などをぬらす財産損害発生の原因となります。
- **必ず同梱のパッキンを使用する**
- **袋ナットは十分締め付け、取付後、水漏れがないことを確認する**
- **フレキホースは極端に折らず、R60mm以上を確保する**
- **フレキ管とフレキホースは接触させない**
  水漏れして建物や設備などをぬらす財産損害発生の原因となります。

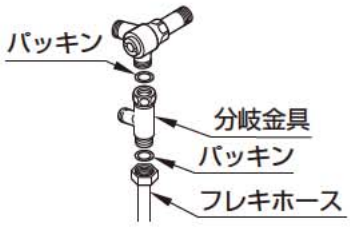



止水栓(給水管用)は一方の口をサーモスタットと接続し、もう一方の口はシングルレバーと接続します。
下記を参照して、接続する口を間違えないよう取り付けてください。

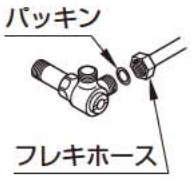
▶シングルレバーの給水・給湯ホースの接続 P.40 STEP9参照

### Lタイプの場合

水道水仕様の場合

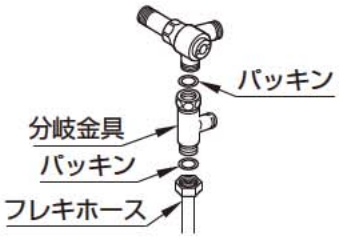



再生水仕様の場合




### Rタイプの場合

水道水仕様の場合




再生水仕様の場合

## ⚠注意

禁止

**接続する給水口を逆に配管しない**
フレキホースに無理な力がかかってキンクの原因となり水漏れして建物や設備などをぬらす財産損害発生の原因となります。

# STEP5.幅木

## 1 幅木の取り付け

### ❶ タイプにあわせて幅木を選定

**側板なしの場合**

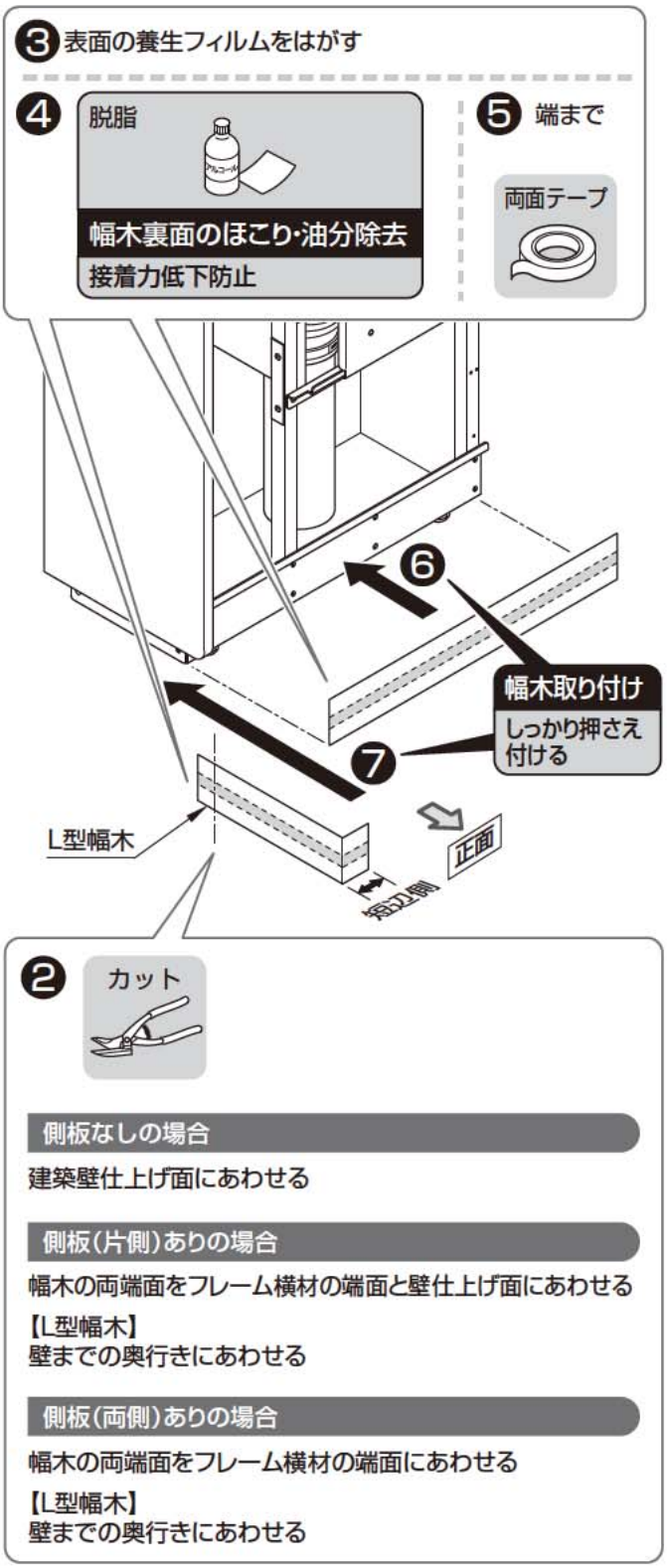
幅木L=600㎜ 1枚(フレームに同梱)を使用

**側板あり(片側)の場合**

幅木L=600㎜(フレームに同梱)と
L型幅木(側板:別売品に同梱)を使用

**側板あり(両側)の場合**

幅木L=600㎜(フレームに同梱)と
L型幅木2枚(側板:別売品に同梱)を使用




**側板なしの場合**

建築壁仕上げ面にあわせる

**側板(片側)ありの場合**

幅木の両端面をフレーム横材の端面と壁仕上げ面にあわせる

【L型幅木】
壁までの奥行きにあわせる

**側板(両側)ありの場合**

幅木の両端面をフレーム横材の端面にあわせる

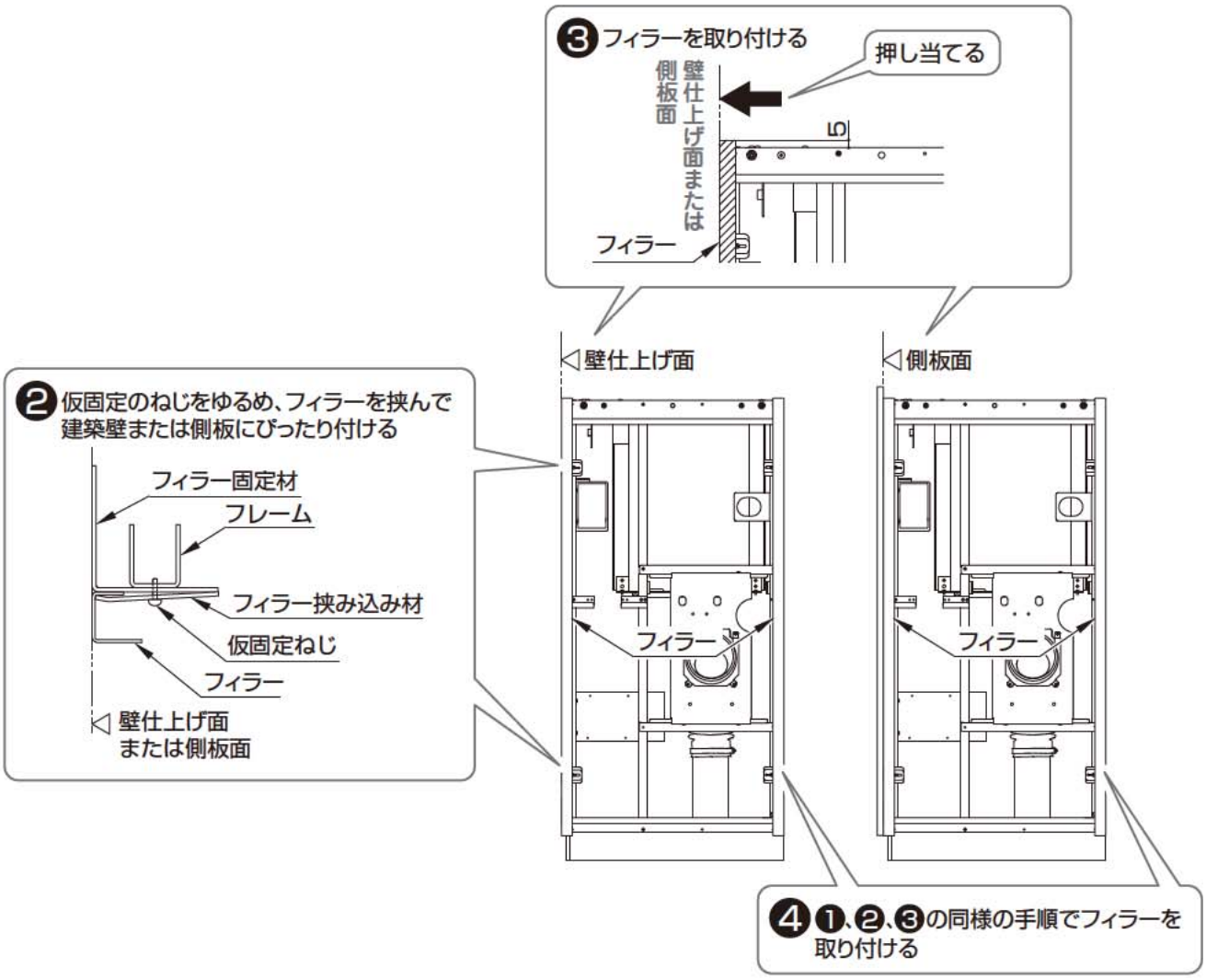
【L型幅木】
壁までの奥行きにあわせる

MEMO

# STEP6.フィラー

## 1 フィラーの取り付け

❶ フィラーの養生フィルムをはがす

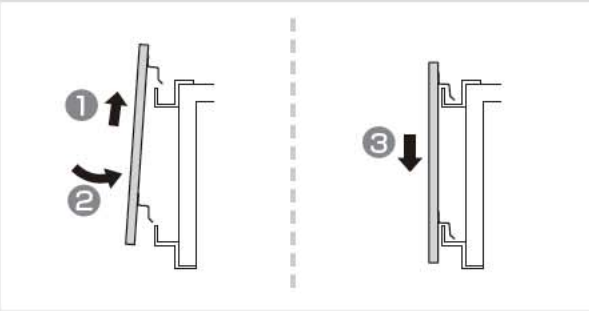



MEMO

# STEP7.前板

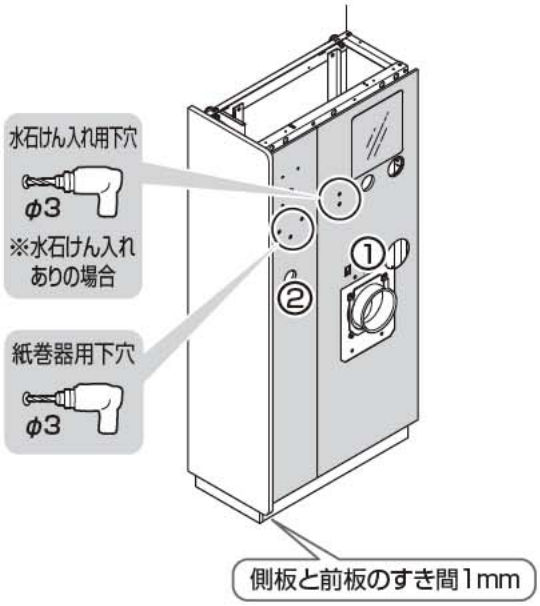
## 1 前板の取り付け

**前板の取り付けかた**




❶ 前板の養生フィルムをはがす

❷ 前板を①、②の順番に取り付ける




❸ 前板を取り付けた後、左右の前板と建築壁、側板とのすき間が均等になるように調整する

MEMO

# STEP8.汚物流し

▶P.31

▶P.31

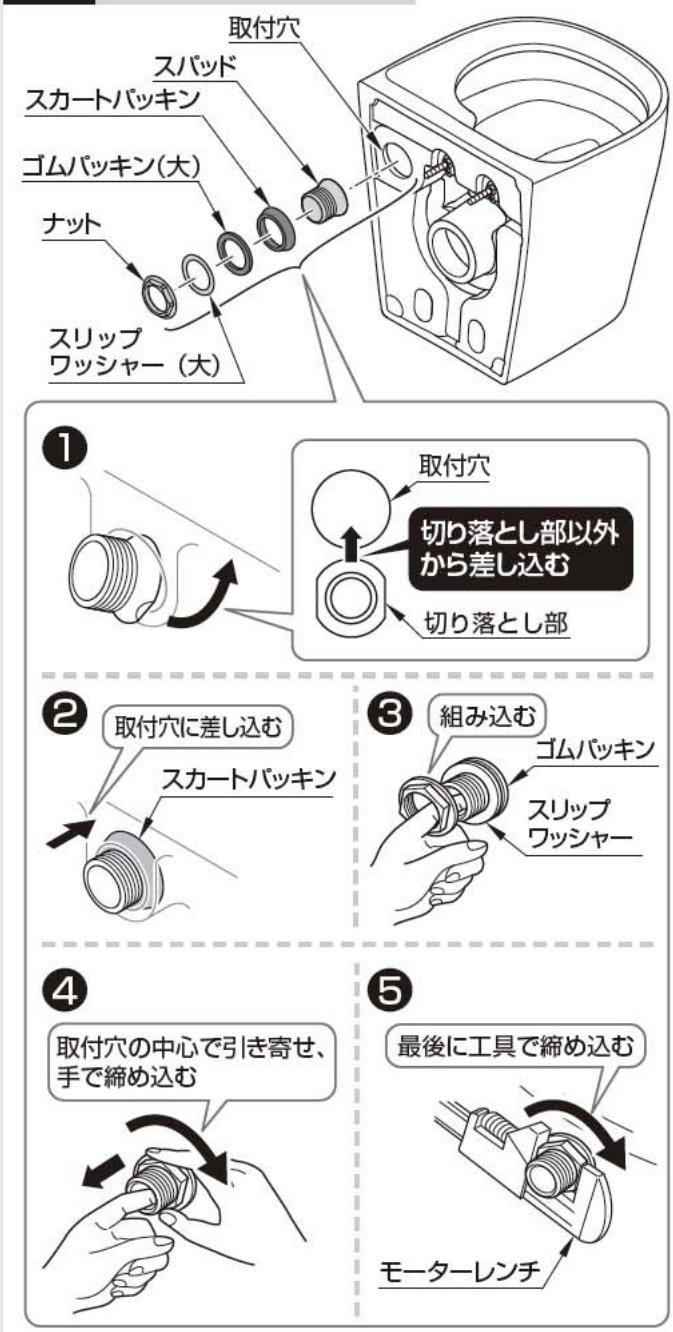
▶P.32

▶P.32

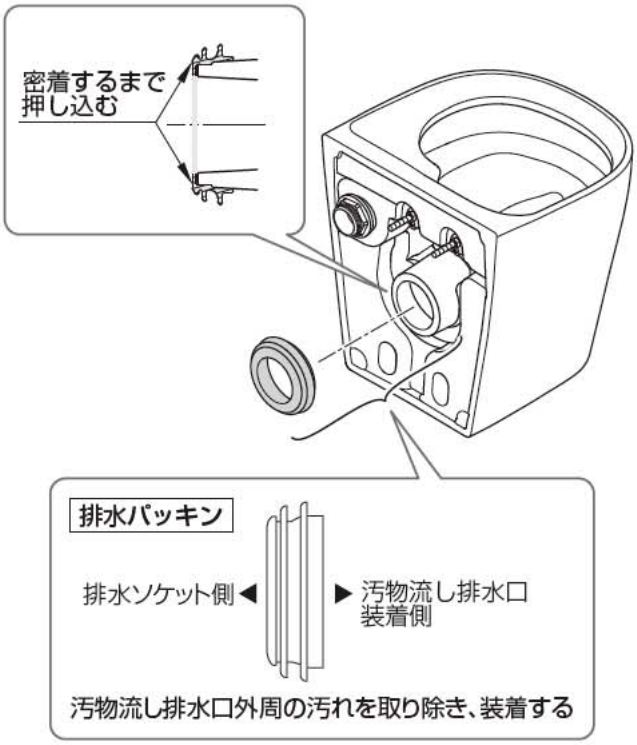
▶P.32

## 1 陶器固定ボルトの取り付け

## 2 スパッドの取り付け



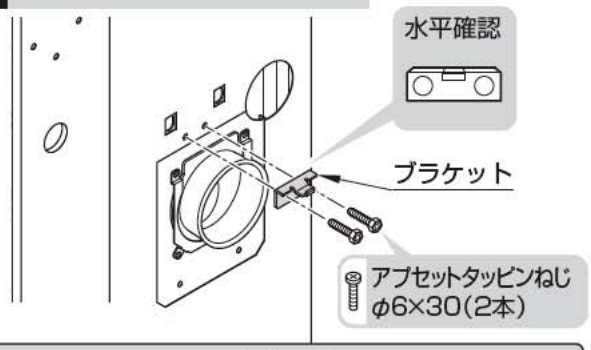
## 3 排水パッキンの取り付け




### ⚠注意

| | |
|---|---|
| 禁止 | **グリスは使用しない**<br>劣化し水漏れして建物や設備などをぬらす財産損害発生の原因となります。 |
| 必ず守る | ・**汚物流し排水口装着側に必ず水または石けん水をつけてから差し込む**<br>・**排水パッキンは汚物流し排水口に密着するまで押し込む**<br>水漏れして建物や設備などをぬらす財産損害発生の原因となります。 |

## 4 ブラケットの取り付け




### ⚠注意

| | |
|---|---|
| 必ず守る | **ブラケットの取り付け向きを間違えない**<br>器具が落下してけがをする原因となります。<br>上<br>下 |

## 5 汚物流しの取り付け

### ⚠注意

| | |
|---|---|
| 禁止 | **グリスは使用しない**<br>劣化し水漏れして建物や設備などをぬらす財産損害発生の原因となります。 |
| 必ず守る | ・**排水パッキン表面に必ず水または石けん水をつけてから差し込む**<br>・**排水パッキンを他の部位にぶつけない**<br>・**排水パッキンを強引に挿入しない**<br>パッキンの劣化、変形、切れ、めくれなどにより、水漏れして建物や設備などをぬらす財産損害発生の原因となります。 |

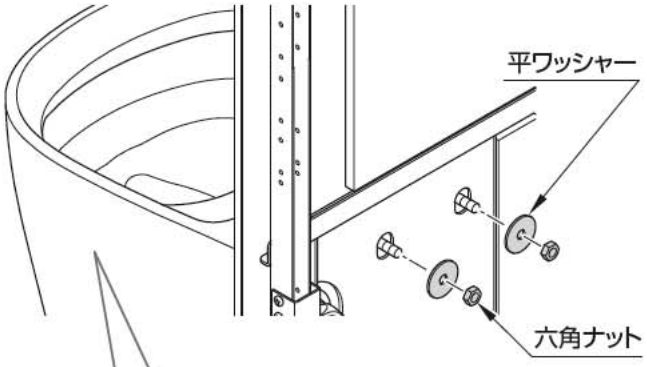
❸ 陶器固定ボルトをライニングの内側から工具を使用し確実に固定する

**⚠注意**

必ず守る

**平ワッシャー、六角ナットは忘れずに取り付ける**

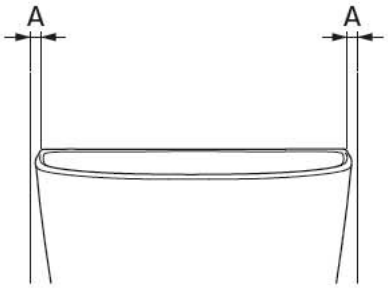
陶器が落下し、けがの原因となります。



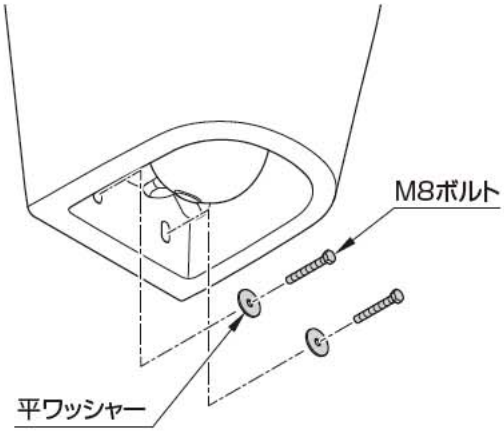

下記内容を確認

□陶器が水平に取り付けられているか

□陶器両端と前板の間隔Aが均一か




❹ 本固定




**⚠注意**

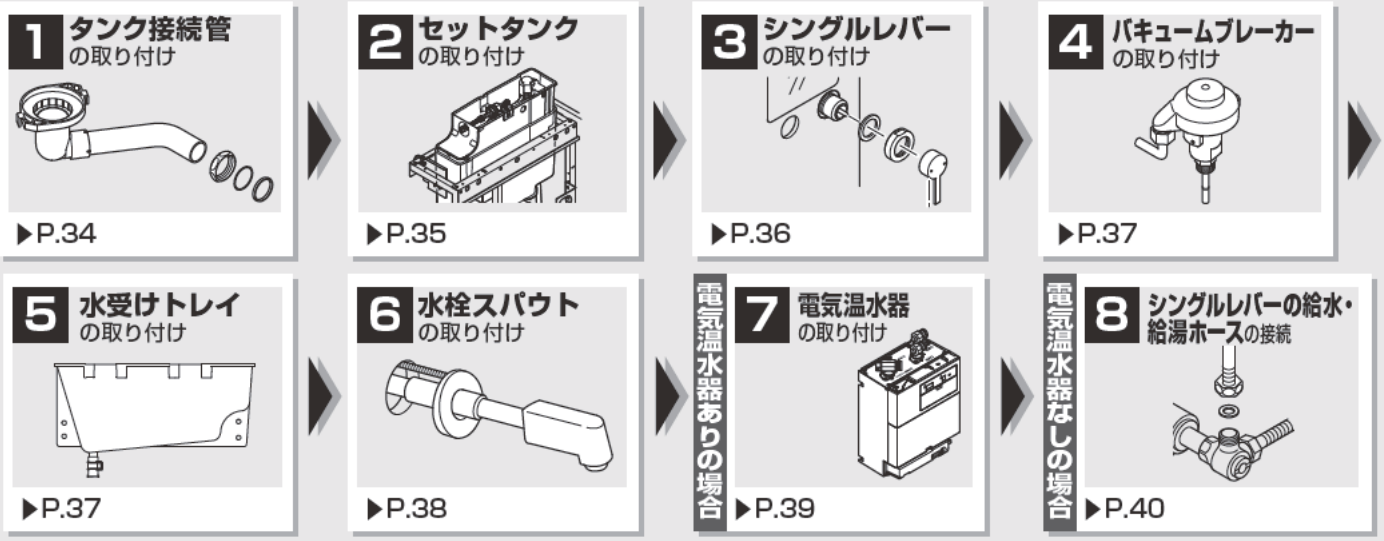
禁止

**ボルトをきつく締めすぎない**

陶器が割れ、けがの原因となります。

MEMO

# STEP9.セットタンク



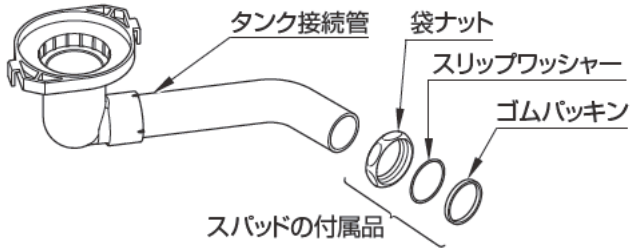

**※汚物流しは取り付けた状態で作業を進めてください。**

## 1 タンク接続管の取り付け

※本施工説明書では、点検口左の場合を記載します。

❶ 前板(点検口)を取り外す

❷ タンク接続管の仮組み



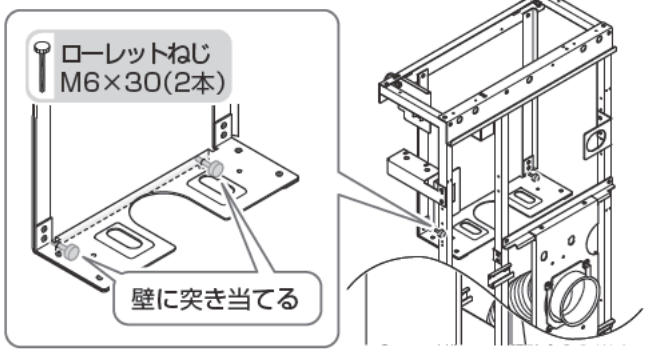

### ⚠注意

必ず守る

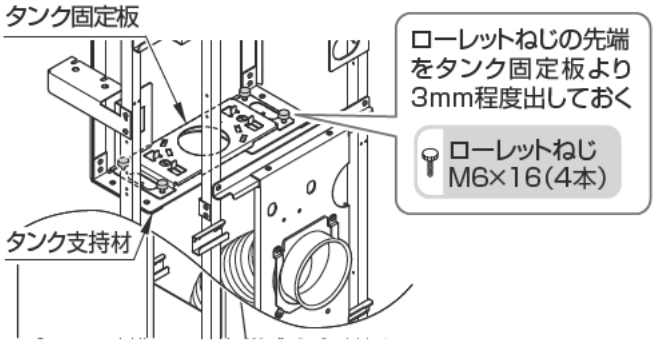
**袋ナット・スリップワッシャー・パッキンの取付順番を間違えないようにする**

水漏れして建物や設備などをぬらす財産損害発生の原因となります。

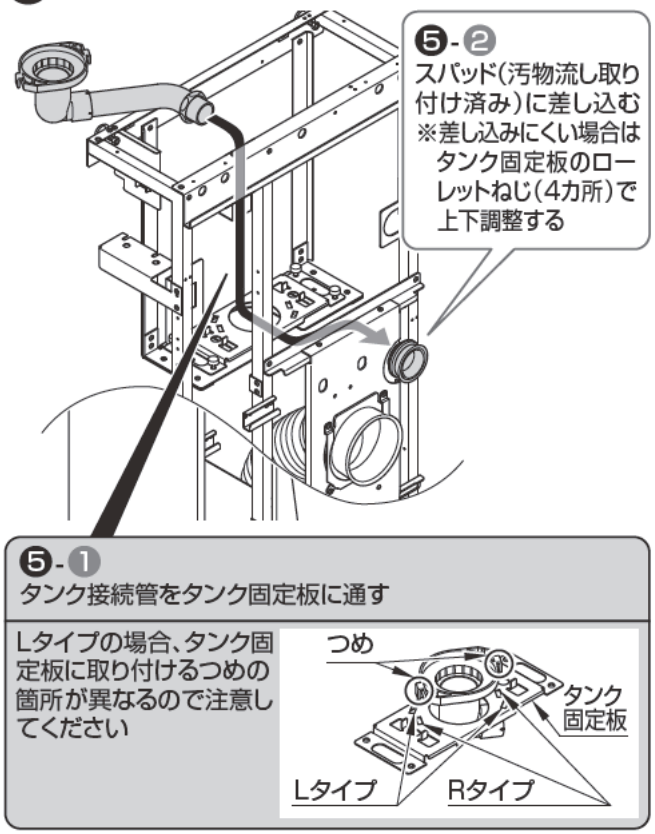
❸ タンク支持材にローレットねじを壁に突き当たるように取り付ける



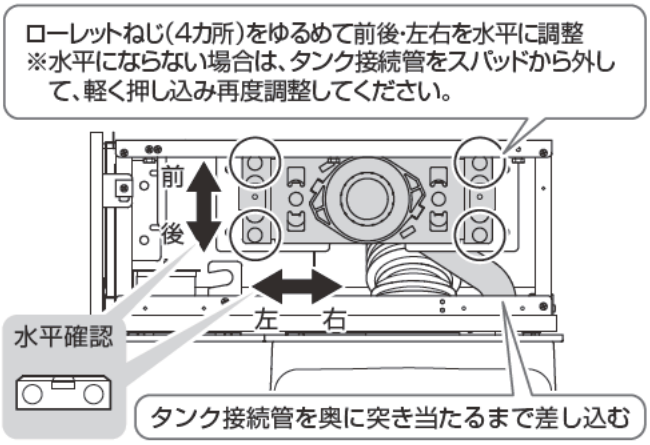

❹ タンク固定板をタンク支持材に仮置きする



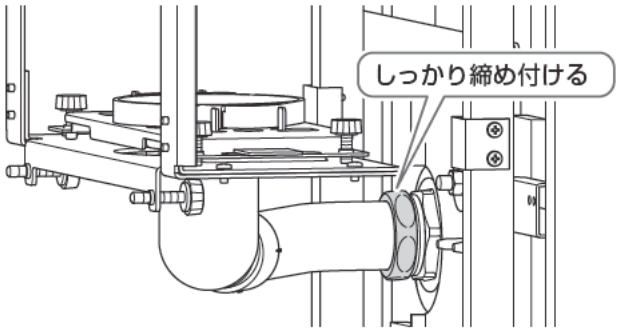

❺ タンク接続管の取り付け



❺-❸ タンク接続管の位置調整

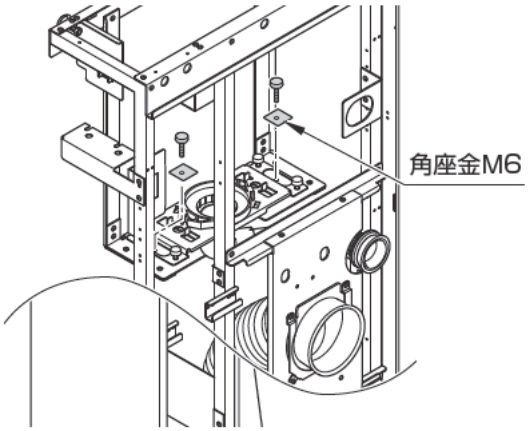



❻ 工具を使用して袋ナットを締め付ける




❼ タンク固定板をローレットねじで取り付ける

ローレットねじ
M6×30(2本)




## ⚠注意

必ず守る

**角座金は水平にセットすること**
タンク固定板の固定が不十分になり異音発生の原因となります。

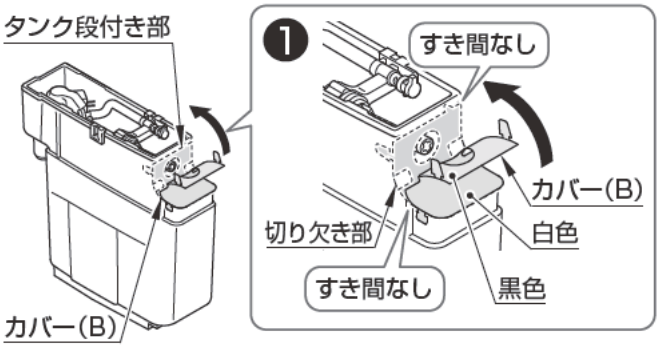
下記内容を確認

□タンク接続管がスパッドの奥に当たっていること
□タンク接続管が前後左右水平であること
□ローレットねじにゆるみ、ガタツキがないこと

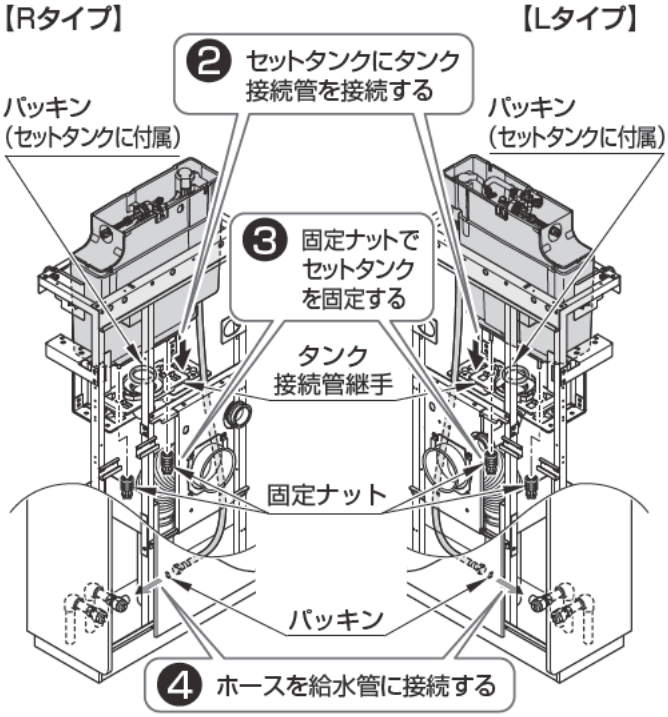
# 2 セットタンクの取り付け

電気温水器ありの場合

※電気温水器なし仕様の場合は、本作業は必要ありません。
❷から作業してください。




※カバー(B)はフレーム部部品セットに梱包されています。
※カバー(B)は白色の面を外側にして取り付けてください。




下記内容を確認

□タンク接続管が逆勾配になっていないかを確認
□セットタンクの向き(左右)を確認

## ⚠注意

必ず守る

- **セットタンクにパッキンがセットされていることを確認する**
  水漏れして建物や設備などをぬらす財産損害発生の原因となります。
- **再生水仕様の場合、水道水と再生水を間違えないよう給水接続をする**
  故障や皮膚の炎症などをおこす原因となります。

### 固定ナットの取り付けかた

固定ナットを手締めでかたく締め付ける。
※再度、左右が確実に締まっていることを確認してください。

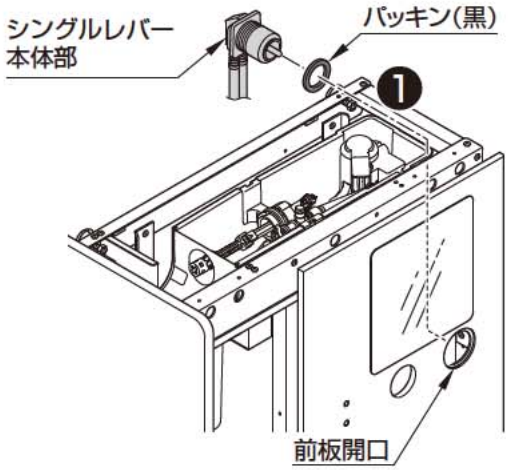
**⚠注意**

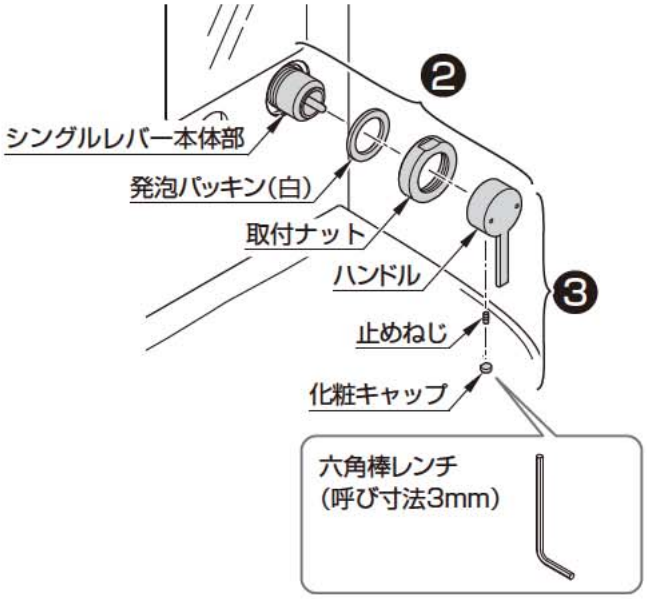
必ず守る

- **固定ナットを締め付けるときは必ず手で行う**
  工具を使用すると破損するおそれがあります。
- **左右の固定ナットを確実に締める**
  水漏れして建物や設備などをぬらす財産損害発生のおそれがあります。

MEMO

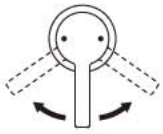
## 3 シングルレバーの取り付け



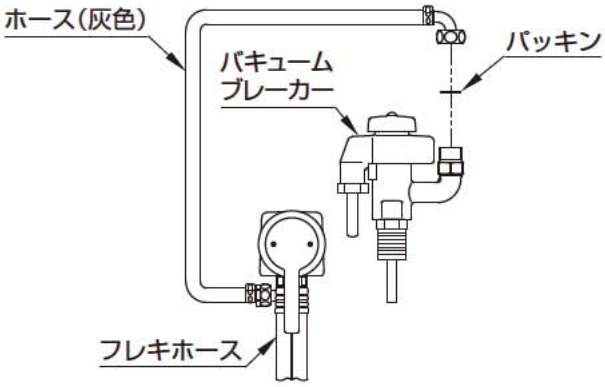




**下記内容を確認**

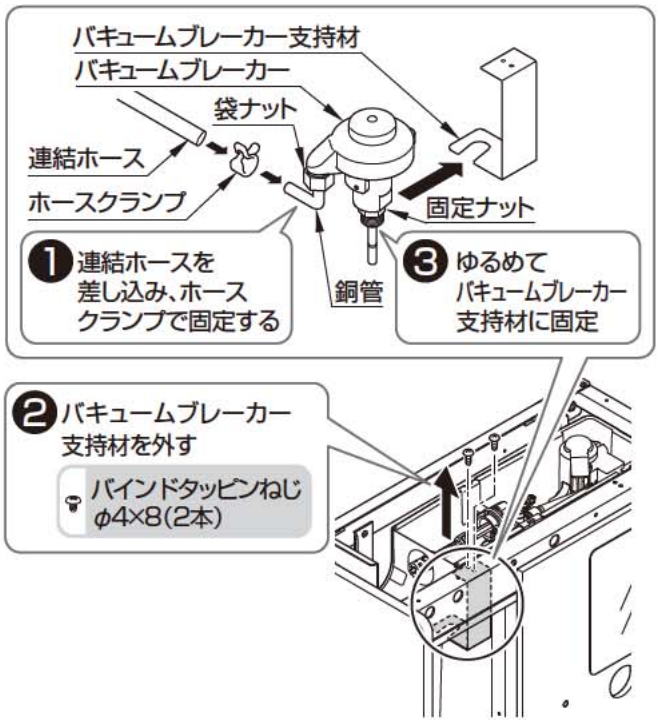
□ハンドルの向きは正しいか
（ハンドルの動作範囲は右図参考）
□ハンドルは確実に取り付いているか
（ハンドル操作で確認）
□化粧キャップは栓の根元側に切り落とし部がくるように取り付けていること



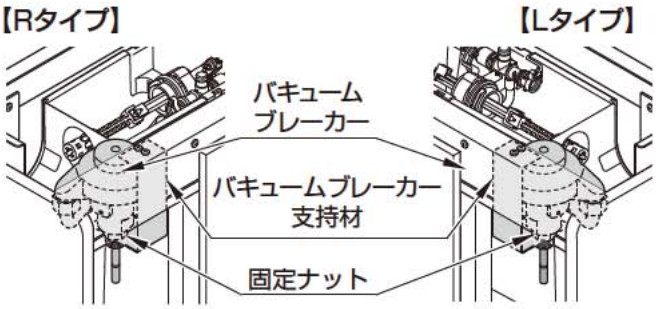
### ❹ バキュームブレーカーの接続



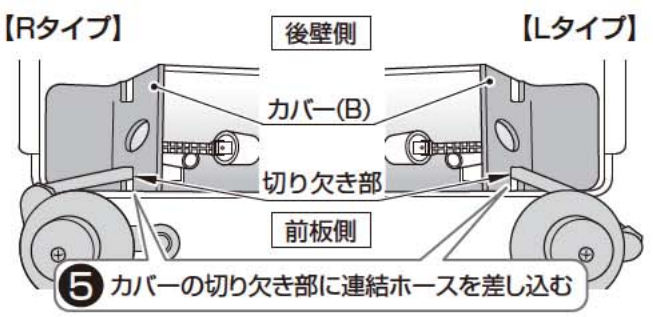
## 4 バキュームブレーカーの取り付け



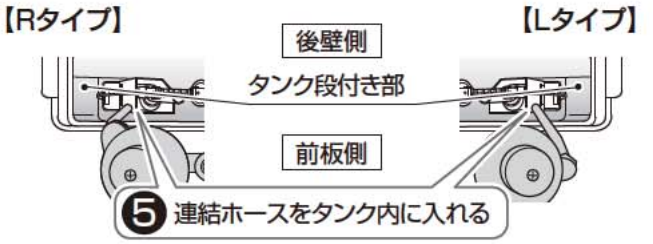

❹ ❷で外したねじでバキュームブレーカー支持材を取り付ける




**電気温水器ありの場合**




**電気温水器なしの場合**



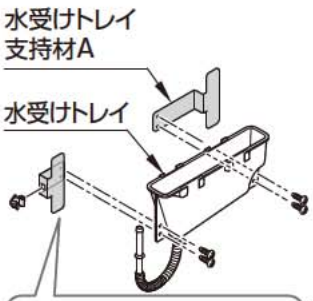

❻ 銅管の袋ナットを締め付ける

## 5 水受けトレイの取り付け

❶ 水受けトレイ支持材の取り付け

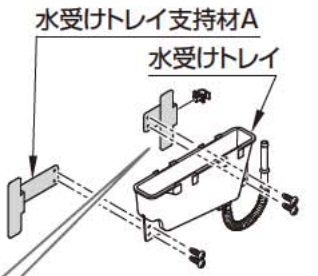
【Rタイプの場合】

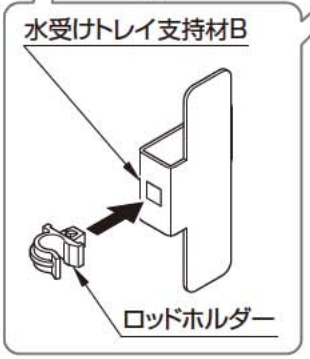
バインドタッピンねじ φ4×8(4本)

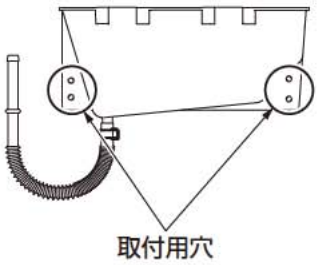



【Lタイプの場合】

バインドタッピンねじ φ4×8(4本)



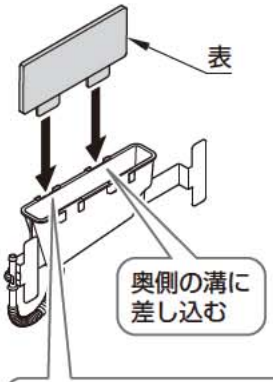



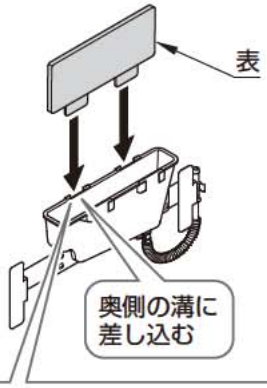

❷ 水受けトレイガイドの取り付け

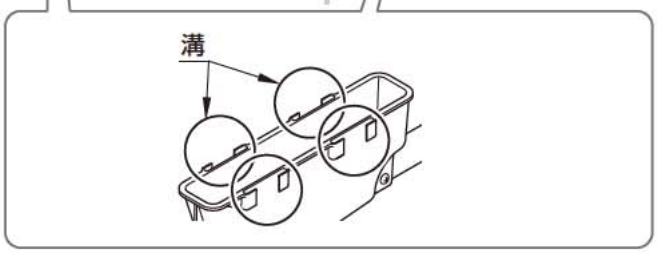
※裏表あり　表：平ら
　　裏：溝あり

【Rタイプの場合】




【Lタイプの場合】



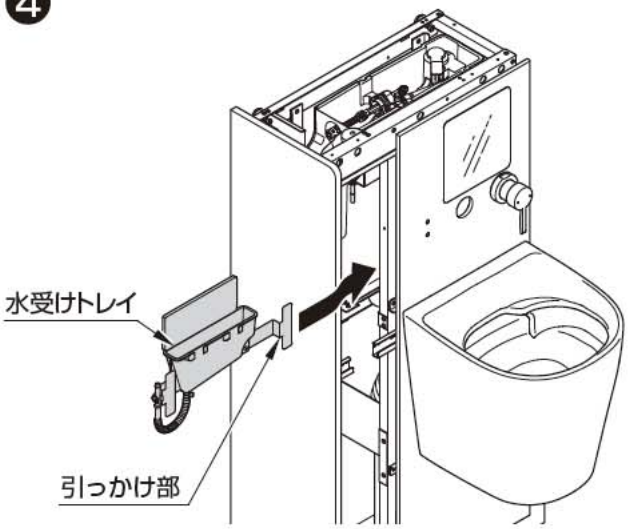




❸ 下記内容を確認

□水受けトレイガイドが溝に正しく差し込まれていることを確認

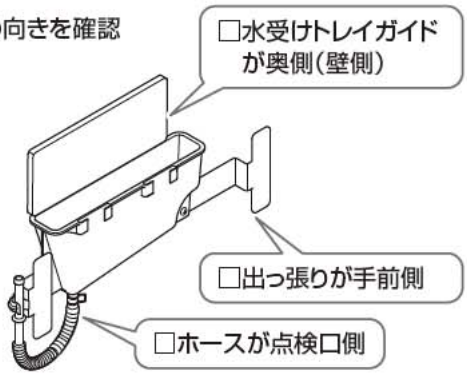
※正しく差し込まれていないと水栓が取り付きません。

❹

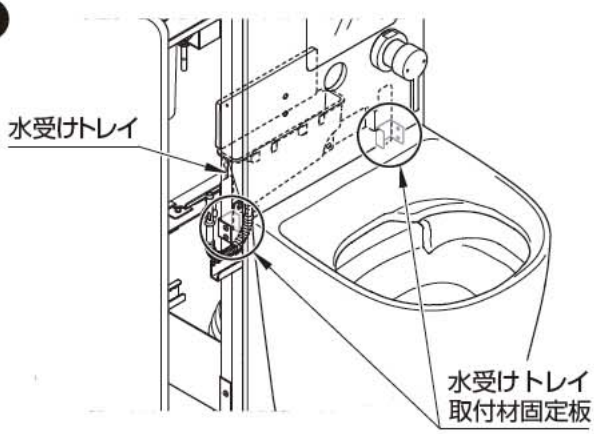



❺ 下記内容を確認

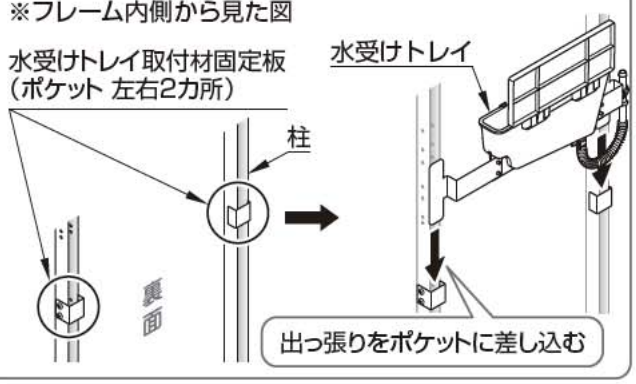
□水受けトレイの向きを確認




❻

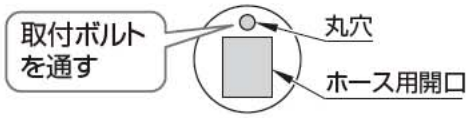



※フレーム内側から見た図

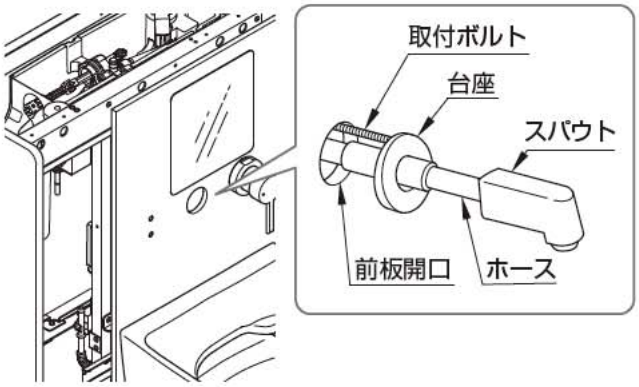



## 6 水栓スパウトの取り付け

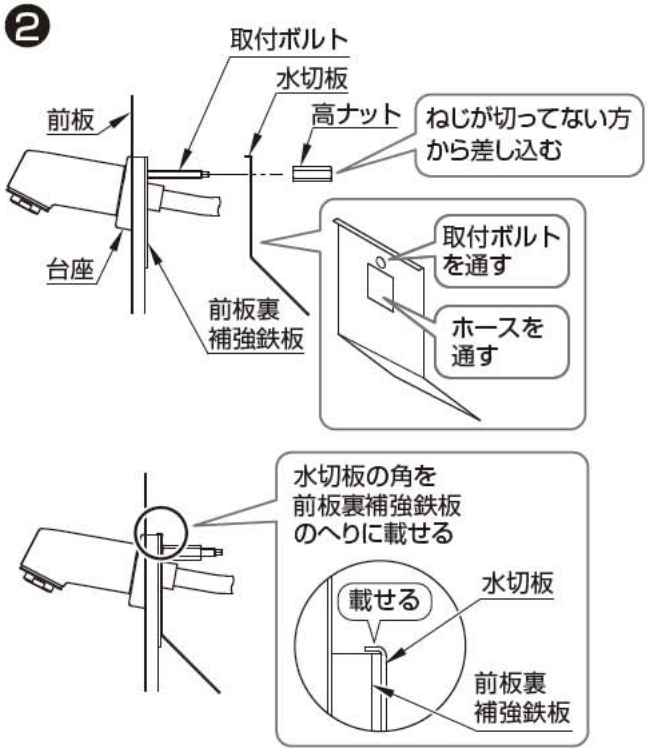
❶ 取付ボルトを前板のホース用開口の上部の丸穴に挿入する




前板開口部正面図




❷



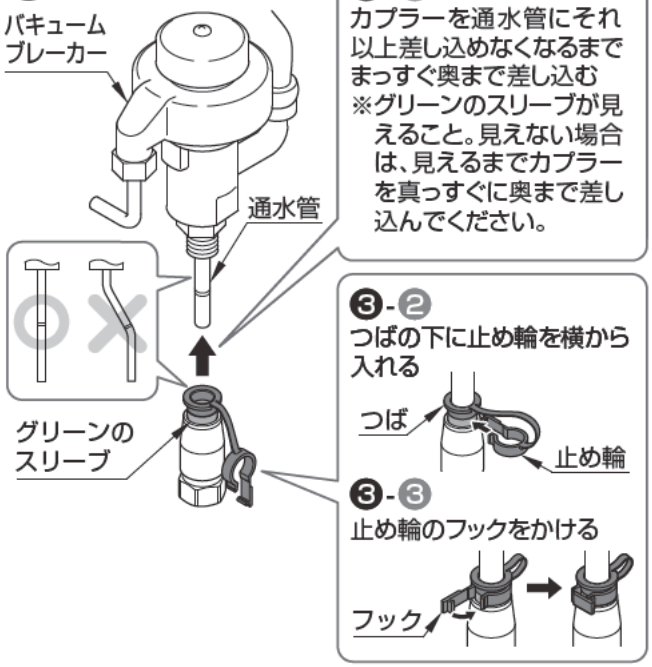

### ⚠注意

必ず守る

**水切板は必ず正しい位置に取り付ける**

水切板は水栓使用時にホースを伝ってフレーム内に入った水を水受けトレイに誘導する役割があります。水切板が正しい位置に取り付いていないと水受けトレイから水漏れして建物や設備などをぬらす財産損害発生の原因となります。

❸ ホースの接続



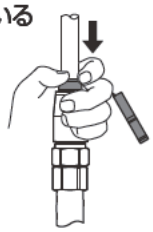

## ⚠注意

必ず守る

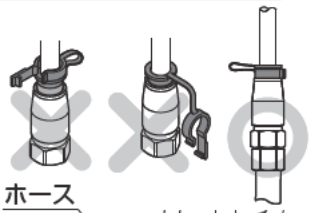
**カプラーは通水管に真っすぐ奥まで差し込む**
奥まで差し込まなかった場合、不完全な差し込み状態となり、水漏れして建物や設備などをぬらす財産損害発生の原因となります。

### ホースの取り外し方法

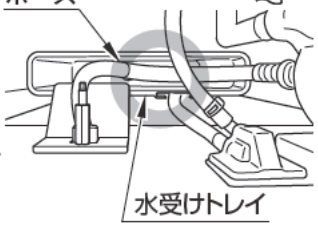
作業前には、レバーハンドルが閉じていることを確認してください
①フックを外す
②止め輪を外す
③つばを本体(金属)まで押し下げる
④つばを押し下げたまま、カプラーを下に引き抜く

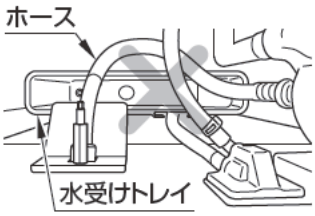


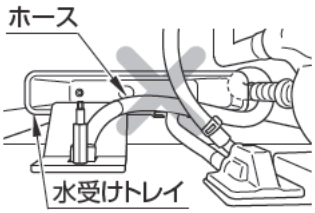
**【チェック】**
□フックは付いているか
□止め輪がつばと本体の間に入っているか




□スパウトを台座に収納した際に、スパウトのホースが水受けトレイに納まっているか
(フレームの上面から確認してください。)



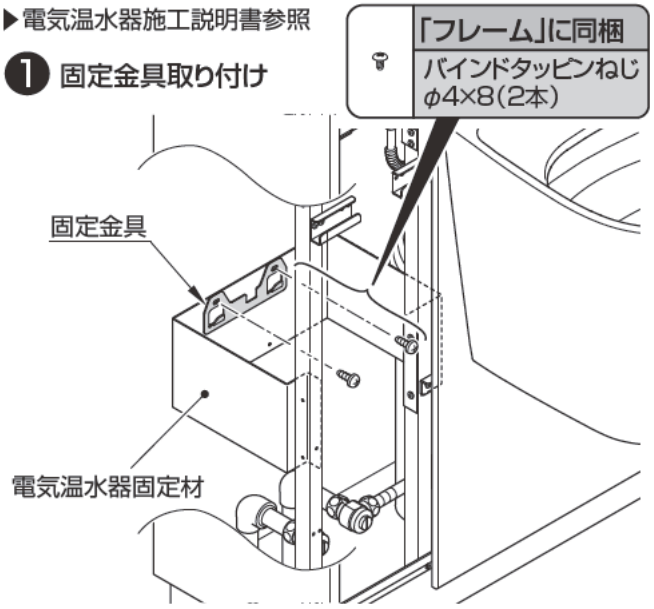




## 電気温水器ありの場合

## 7 電気温水器の取り付け

▶電気温水器施工説明書参照

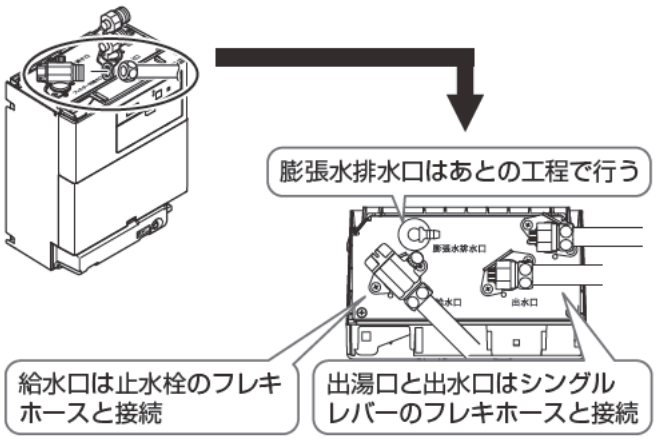
❶ 固定金具取り付け




❷ 配管の接続

▶電気温水器施工説明書参照

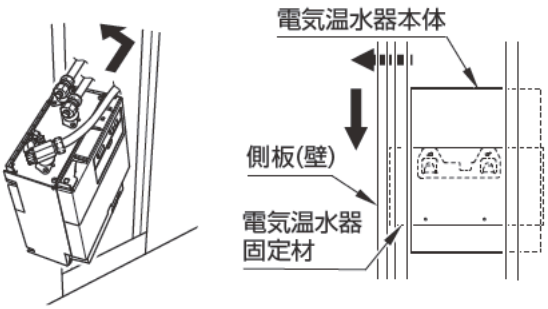
本商品は、この工程では止水栓とシングルレバーのフレキホースの接続を行う(3カ所)




止水栓と電気温水器をフレキホース(L=900mm)で接続する

❸ 斜めにしてフレーム内に入れて電気温水器を固定金具に引っかける

※電気温水器固定材の側板または壁に添わせると、固定金具に取り付けやすくなります。
※電気温水器の下部固定はありません。



## 電気温水器なしの場合

# 8 シングルレバーの給水・給湯ホースの接続

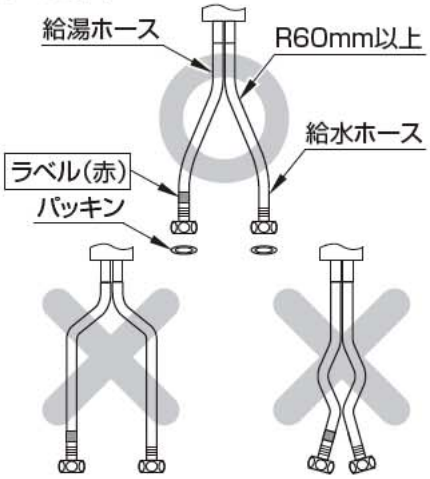
❶ シングルレバーの給水・給湯ホース（フレキホース）の接続

### ⚠注意

禁止

**・ホースを必要以上の力で曲げて折らない**
ホースの最小曲げ半径は 60mm です。それよりも小さく曲げて使用するとホースが破損し、水漏れして建物や設備などをぬらす財産損害発生の原因となります。

**・ホースを必要以上に接触させない**
外部補強層の摩擦によりホースに傷が付いて水漏れして建物や設備などをぬらす財産損害発生の原因となります。

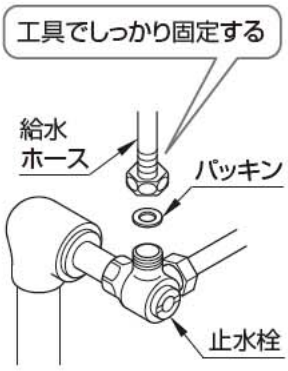



**・ホースを水栓本体端面から極端に歪曲して施工しない、無理に引っ張らない**
ホースが破損し、水漏れして建物や設備などをぬらす財産損害発生の原因となります。

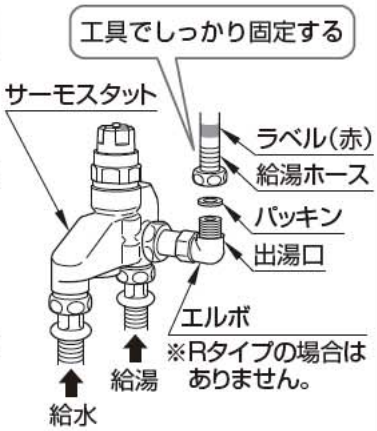
必ず守る

**ホースを接続する際にパッキンの入れ忘れがないか確認する**
水漏れして建物や設備などをぬらす財産損害発生の原因となります。

【給水ホース】
※Lタイプ再生水仕様の場合




【給湯ホース】
※Lタイプの場合




MEMO